



[令和 6 年 2 月 14 日 定例会発表要旨]

手稲本町商店街の歴史について

手稲郷土史研究会 会員 松井 隆文

私は、松井家 11 代として、手稲本町に生まれ育ちました。松井家は、愛知県豊橋から北海道へ渡り、手稲の地で商売を始めたのは、明治 38 年でした。これまで地元手稲の方々に支えられ、今年創業 120 年目を迎えることができました。



味噌醤油の醸造を始め、商圈は、北は稚内、西は共和町あたりまでであったと聞いております。私は、幼少の頃より同居していた祖父から、商売のことなどを教わり、一緒に全国を旅しながら様々な経験をすることができました。その一つが、商売は人と人とのつながり、困った時は互いに助けるといった考え方です。もう一つが、政治的な街づくりの話です。手稲村・手稲町の議会議員として街づくりに関わったこと、札幌市と手稲町が合併する際のエピソードや当時の手稲町民の思いなどを教わりました。



昭和 52 年の手稲町商店街
(札幌市写真ライブラリー提供)

さて、私の家業が加盟しております「手稲本町商店街振興組合」は、手稲本町地域の生活を支える商店の集まりであり、また、お祭りなどの行事といった賑わいづくりの担い手でもあります。

以前、商店街活性化事業の一環として、手稲本町エリアを調査したところ、決して高齢者ばかりのエリアではなく、若者単身者という層が多く住んでいることがわかりました。また、団塊ジュニア・子育て世代も多く、お祭りなどのイベント時には、たくさんの若者や子供達が集まってくることも事実です。こうした若い層を、イベント時の一過性顧客ではなく、日頃から足を運んでもらえる常連へと導くことが、課題となっております。私が小学生くらいの頃は、商店街の理事や組合員同士で、頻りに飲み会があり、組合内部のコミュニケーションが密であった印象が残っています。時代が変化したとはいえ、こうしたコミュニケーションが、組合振興の原点かも知れません。

また、手稲本町商店街振興組合は、平成 11 年に、手稲駅北口に「ノースステーション」という建物を建築しました。1 階が郵便局で 2 階以上は単身者向けの賃貸マンションです。こうした建物を所有し、主たる事業収入があるという点は、全国的に見ても珍しい特徴であると思います。

私は、20 代の頃から、全国様々な商店街を視察して参りましたが、一番印象に残っているのは、東京自由が丘の商店街です。この振興組合は、環境づくりといった裏方に徹し、魅力ある店舗を誘致するなど、常に今のお客様が求める商品やサービスを揃え続けることに取り組んでいました。ホームページ等では知れない、現場の本音や現状に触れることは、自分達の商店街にも活かせる貴重な教材でした。

さて、現在、AI（人工知能）が急速に進展し、これまで人間が解決できなかった課題や難問を解いてしまう時代へと突入しています。全人類の知能に匹敵するレベルに至り、今後 10 年で、AI

は人類の10倍の知能となり、20年後には、人類の英知の総和の1万倍になるとも言われています。商店街の在り方も大きく変わる転換期にあると認識し、人々の幸せづくりを続けていきたいと思えます。

レポート 吉田類の「にっぽん百低山」～手稲山ロケ班 同行編～

2022（令和4）年8月17日放送の番組、NHK「にっぽん百低山」に出演・番組制作協力をしました。撮影の下見は5月28日。小雨降る早朝にプロデューサー、ディレクター、技術、撮影、音声の番組制作スタッフ計8名と共に宮町浄水場登山口より滝の沢川に沿って山道を進み、まずは乙女の滝へ向かいました。この時期に見られる山道沿いに咲く野花、樹木を確認しながら石積み住宅の痕跡を探し、当時の生活状況を想像し手稲鉱山の様子を説明しました。手稲山山頂への北尾根ルート、男子大回転ゴール跡地点付近までの約4.5kmを説明し、滝の沢川に沿って歩きました。

翌日29日、曇り空の昼下がり。昨日下見に訪れた番組制作スタッフ、吉田類さん（俳人、エッセイニスト）、手稲区出身の中島亜梨沙さん（女優、タレント、リポーター、元宝塚歌劇団月組・星組の娘役スター、容姿端麗！）、付き人専任メイクスタッフと宮町浄水場登山口にて待ち合わせをし、吉田類さんを先頭に撮影開始、滝の沢川に沿って昨日下見したルートを歩いて行きました。川のせせらぎの音を聴きながら山道を進むと案内板が見え、左側に進むと水音がひととき大きく聴こえてきます。涼しげな森の奥に雄大で美しい姿の乙女の滝が見えたところで一行は小休止。初めて乙女の滝を見た中島亜梨沙さんもびっくり！！されておりました。春から初夏に移りゆくたくさんの花々、新緑を抱いた手稲山。さらに進むと昔栄えていた鉱山生活の住宅痕跡、金鉱石の採掘当時の説明に吉田類さん、中島亜梨沙さんは再度びっくり！！今度「砂金探し、やってみよう！！」と話し、撮影終了後、二股口でお別れしました。ここで一句、「新緑を ジェンヌと共に 手稲道」 しゅんいち

番組制作に協力依頼を受け、予行・下見、本番と2日かかしの工程に10数名のスタッフと同行して、番組制作時の取り組みを学と共に驚きを実感し、吉田類さん、中島亜梨沙さんとの出会い体験の一コマでした。2023（令和5）年6月には番組の放送内容をまとめた書籍「NHK にっぽん百低山 吉田類の愛する低山 30」が出版され、手稲山の放送回の内容も掲載されました。乙女の滝、鉱山跡、パラダイスヒュッテ、山頂も紹介されています。今年2024（令和6）年3月20日には番組の総集編が放送されますので、皆様ぜひご覧ください。（手稲郷土史研究会 事務局長 林 俊一）

★濱埜会員に北海道開拓の村ボランティアの感謝状が贈られました。

3月、長年に渡り北海道開拓の村ボランティアを続けてこられた方々へ知事感謝状贈呈式が行われ、当研究会会員の濱埜静子会員に感謝状が贈られました。心よりお祝い申し上げます。

●訂正・お詫び致します… ★前号181号「『北海道造林合資会社物語』外伝～近藤家の家系図」の要旨にて、「新太郎翁の後妻 理久さんの次男で池見家へ養子に入られた厚一氏であった」となっていました。正しくは「厚氏」、「池見家の長女 チヨさん」は正しくは「イチさん」でした。

★前号189号「手稲の歴史掘り起し『北日本飛行学校物語』刊行にあたって」の要旨にて、手稲西小学校教頭の西村先生となっていました。正しくは「高屋先生」でした。

★定期総会のご案内 手稲郷土史研究会の令和6年度定期総会を、4月10日（水）午後6時15分より、手稲区民センター3階の視聴覚室で開催します。なお、終了後に飲食を伴う懇親会を予定しております。会員の方は懇親会の会費2,000円のお支払いをお願い致します。